

草花類植栽の検討 (修正案)

3. 草花類の植栽方針(案)

(1) 基本的な考え方ー取り組み方針

基本的な考え方

奈良公園の植栽の最も大きな特徴は、「人と鹿によって作り出された植栽・・・高木と芝地・草地で構成される植栽 ※」であり、これを適切に保全・継承し活用することは極めて重要なことである。このことを踏まえて、草花類の導入にあたってはこの特徴をしっかりと保全・継承するとともに、草花類植栽によって奈良公園の景観の魅力を向上させることが必要である。また前項で整理された計画条件からすると、シカがいる開放区において草花類植栽を行うことは非常に多くの制約条件があり、技術的にも難しく多大なコストや労力を要することが分かる。これに対し制限区においては制約条件はほとんど無く、技術的にも確立されており、コストや労力も大きくはない。

これらのことから、制限区は公園全体の景観から隔離されていることもあり、草花類植栽の導入は比較的容易で景観的な効果が十分に期待できるが、開放区の草花類植栽は技術的な難度が高く、奈良公園の植栽の特徴を活かしつつ景観的な効果を上げることも難度が高いと考えられる。

よって、制限区の草花類の導入は積極的に取り組みを進められると考えられるが、開放区の草花類の導入はコストや技術的な課題だけでなく、奈良公園の植栽の特徴を活かしつつ魅力向上が期待できる適地選定や植栽演出方法の検討が大きな課題となることから、特に慎重に取り組む必要がある。

取り組み方針(案)

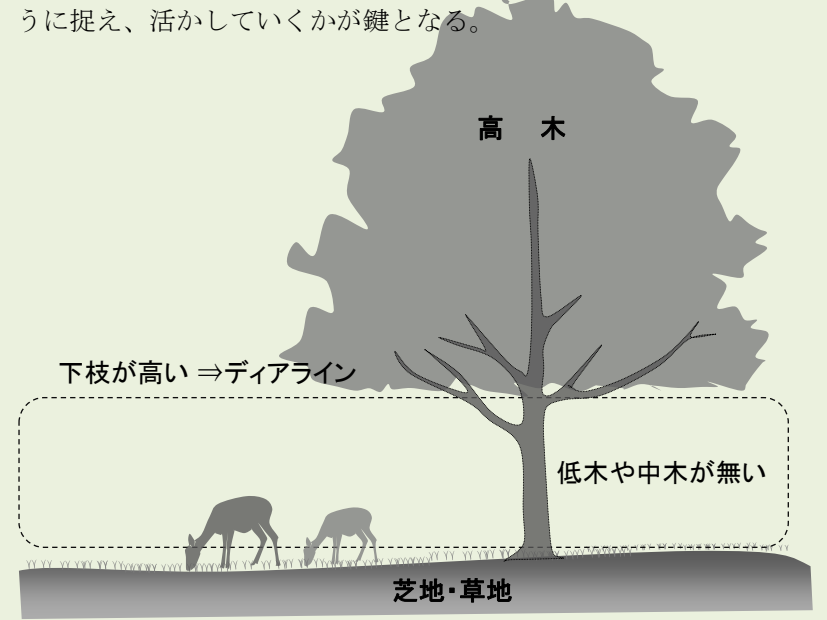
「奈良公園での草花類植栽は、制限区で先行的に進める」

修正:委員意見①②③④に対応

人と鹿によって作り出された植栽 ・高木と芝地・草地で構成される植栽

奈良公園の植栽の大半は、人が植えたマツ類、スギ、サクラ類、カエデ、ウメ、サルスベリなどの高木と、山焼きにより維持している若草山の草地やシカが食すことで維持される芝地によって構成されている。通常の公園や園地で見られる中木や低木、草本は、シカが食すことにより失われ、わずかに見られる程度である。また、高木もシカが食すことにより、枝下の高さが約2mにカットされている。これらの結果、奈良公園一帯は極めて見通しが良く、緻密な芝地と高木だけで構成されるシンプルな植栽景観となっている。

これは、奈良公園の植栽景観の最大の特徴であり、また最大の制約条件でもある。植栽計画の検討にあたっては、このことをどのように捉え、活かしていくかが鍵となる。



※引用:奈良公園植栽計画・基本方針の前書き

3. 草花類の植栽方針(案)

(2) 植栽方針(案)

草花類の植栽方針(共通)

- 草花類の植栽は、奈良公園の歴史文化、自然、景観との調和を図る。
 - ・植栽箇所、植栽種、植栽手法に配慮して歴史文化、自然、景観との調和を図る。
 - ・社寺境内地や自然林付近への植栽は控える。
- 草花類植栽は、修景効果、管理省力化に十分配慮して、持続可能なものとする。

制限区の植栽方針

- 制限区の草花類植栽は、各区の土地利用や景観特性を最大限に活かしたものとする。
- 制限区の草花類の配植は、彩りの効果を高めることに重点を置くものとする。

開放区の植栽方針

修正: 委員意見①に対応

- 開放区の草花類植栽は、奈良公園の特徴的な植栽景観を活かしつつ、景観の魅力向上を図るものとする
- 草花類の植栽種は、原則として古くからある種とし、外来種は慎重に取り扱うものとする。
 - ・草花類の植栽種は、原則として奈良公園に古くからある(又は古くにはあった)種とする。
 - ・外来種でシカの不嗜好性がありかつ繁殖力のある植物種は、いかなる場合も用いない。
- 草花類の配植は、景観改善効果や環境保全効果が十分期待できる部分に限定する。※
- ・配植は草花類導入によって景観の質が大きく向上できるところに重点を置く。
- ・配植は芝地が広がる箇所を避け、シバ等が生育困難な裸地等に重点を置く。

修正: 委員意見④に対応

※これまで植栽計画が検討された区域内の開放区は、芝地の広がるところが大半で草花類植栽が適している箇所は非常に限られていることから、今後植栽計画の検討を進める区域で草花類植栽の適地があれば、その時点で検討を行う。

3. 草花類の植栽方針(案)

(3) 植栽種の設定

① 植栽種の考え方

共通	・外来種でシカの不着性がありかつ繁殖力のある種は、いかなる場合も用いない。 修正: 委員意見⑤に対応
制限区	・ 植物種は、原則として「和の風情」のある種とする。
開放区	・植栽種は、原則として奈良公園に古くからある(又は古くにはあった)種とする。具体的には、「現在奈良公園内に分布する草花類」、「万葉集など古い記録に記載がある草花類」とする。

② 開放区で植栽可能な草花類

○奈良公園の在来の草花類
アセビ、ワラビ、ウツギ、アジサイ、ススキ、ノアザミ、マルミノヤマゴボウ、カンサイタンポポなど
 ※下線は万葉集に記載がある草花類

○万葉集に記載がある草花類 右表

現代花名	万葉花名	移入種(原産地)	現代花名	万葉花名	移入種(原産地)
低木			ツクバネソウ	つちはり	
アジサイ	あぢさゐ		ツボスミレ(タチツボスミレ)	つぼすみれ	
アセビ	あしび		ツクサ	つきくさ	
ウツギ	うのはな		ノジグク	ももよぐさ	兵庫以西
クサイチゴ	いちし		ハマユウ	はまゆう	本州南岸
ジンチョウゲ	さきくさ	中国	ヒオウギ	ぬぼたま	
ツツジ類	つつじ		ヒガンバナ	いちし	
ツバキ	つばき		ヒメシャガ	はなかつみ	
ニワウメ	はねず	中国	ヒメユリ	ひめゆり	
ハギ、ミヤギノハギ	はぎ		フキノウ	な	
ミツマタ	さきくさ	中国	フジバカマ	ふぢばかま	
ムクゲ	かほばな	中国	マルミノヤマゴボウ	さきくさ	
ヤマブキ	やまぶき		メハジキ(ヤクモソウ)	つちはり	
多年草			ヤブカンゾウ、ヘメロカリス類	わすれぐさ	中国
アマドコロ	ところづら		ヤブコウジ	やまたちばな	
アミガサユリ(バイモユリ)	はは	中国	ヤブラン	やますげ	
イカリソウ	さきくさ		ユリ(ササユリなど)	ゆり	
イワタバコ	やまちさ		リンドウ	思ひ草	
エンレイソウ	つちはり		ワラビ、イワヒメワラビ	わらび	
オキナグサ	ねっこ草		一年草		
オケラ	おけら		アサガオ	あさがほ	熱帯アジア
オミナエシ	をみなへし		ケイトウ	からあみ	熱帯アジア
カタクリ	かたかご		ハハコグサ	な	
カワラナデシコ	なでしこ		ベニバナ	くれなる	エジプト
キキョウ	あさがほ		レンゲ(ゲンゲ)	えぐ	中国
コウゾ	たく		蔓植物(一年草除く)		
コウヤボウキ	たまほばき		アオツツラフジ	つづら	
ササ類	ささ		クズ	くず	
シャガ	はなかつみ	中国	テイカカズラ	いはづな	
ジャノヒゲ	やますげ		ナツフジ	ふじ	
シュラン	らに		ノイバラ・テリハノイバラ	うまら	
シラン	けい		ヒルガオ	かほばな	
ススキ	をばな		水生植物		
スミレ	すみれ		カキツバタ	かきつばた	
タチアオイ	あふい・あふひ	トルコ	ノハナショウブ	はなかつみ	
タチバナ	たちばな		ハス	はちす	
チカラシバ	しばくさ		ヒツジグサ	たはみづら	